

快適な北国の暮らしを実現するため、高速道路ネットワークの整備や安全・安心の道づくり、シーニックバイウェイ、道路環境の整備などさまざまな道づくりの取り組みがなされています。

一番身近なところにあり、社会生活に不可欠な社会資本である道路をもう一度、地域という立場から見直し、新しい関係を築いていく、そういった時代が来ています。今回は、それぞれの地域で特徴ある地域づくりを実践している方々に、「地域づくり」と「みちづくり」の新しい関係についてお話していただき、未来のみちづくり・地域づくりにつないでいきます。

釧路中心市街地の活性化とみちづくり



三島 基浩 氏

釧路市第一商店街振興組合専務理事
MOO再生委員会委員
釧路ベイロータリークラブ幹事
釧路氷まつりを考える会座長
㈱マイクリエイト・フォトタイム代表取締役

インタビュー

林 美香子 氏

フリーキャスター

ボランティアサポートプログラムへの参加

林 幣舞橋周辺の河畔公園、メインストリートの北大通など、釧路の街はとてもきれいです。この北大通商店街、シャッターが下りているお店も多く、土曜日の早朝ということもあるのでしょうか、あまり人が通って少なく、残念だなと思ったのですが…。

三島 正直いって、近年、中心街への人の流れはずいぶん少なくなりました。特に土日はほとんど郊外の大店に取られてしまう状態です。加えて、この8月に中心部の大店が撤退すれば、さらに閑散となるのではないのでしょうか。

林 そんななか、三島さんは北大通の活性化に向けたいろんな取組みをされていますが、まず最初に国道のボランティアサポートプログラム^{*1}との関わりについてお聞かせ下さい。

三島 5年くらい前にボランティアサポートプログラムを知りました。このプログラムを利用して普段から国道に携わることで、自分たちの商店街

のある北大通を管理しやすくなると思ったのです。

林 最近は国の体制も変わり、官民協働でパートナーシップを作っていく傾向にありますね。

三島 商店街の人たちに国道に花を植えようと説明しましたが、はじめは反発がありました。この商店街は釧路で一番古い商店街です。歩道に何か置くにしても、何をやるにしても、使用許可などで行政の厳しい対応があって、良い印象をもっていませんでした。そこで、まず行政と商店街の人をどうやって合わせるか、そこからスタートしました。行政側も国の道路を管理している立場ですから、何かあってはいけないというのもわかるのです。大変でしたが何回か説明することで理解してもらいました。

林 そんな苦労があって、商店街の皆さんも地域

^{*1} ボランティアサポートプログラム

道路を慈しみ、住んでいるところをきれいにしたいという自然な気持ちを、形あるものにして考え出されたもので、道路管理者・自治体・協力者との3者間で協定を結び、文書で決めた内容に基づき清掃・植樹管理などを行う。



を何とかしようと、ボランティアサポートプログラムに参加するようになったのですね。

三島 プログラムでは、花壇の花植えや道路の清掃活動を実施しました。これを業者に頼んだとしてもキチンとやってくれると思いますが、私たちの商店街がある通りですから、地元の人がやるのが一番良いのではないかと思います。そうして、これまで3年間続けてきました。

林 冬期も活動をなさっていますね。

三島 この北大通は、ラムサール条約の時に整備されたのです。当時、中国から石材を輸入して歩道を作りましたが、釧路は地震が多いところで、道が波を打っていて歩きにくく、そのため、冬も除雪が大変なのです。商店街では家庭用の除雪機を買って除雪をしていましたが大変でした。それで去年、冬も歩きやすい道路にしたいということで、冬期ボランティアサポートプログラムで支援してもらったのです。これは商店街や住民グループが実施する滑り止め砂散布や歩道除雪等のボランティア活動を支援するもので、そのプログラムで小型除雪機の貸し出しをしてもらいました。

林 それは開発局が商店街に貸し付けたということですか。

三島 そうです。お借りした除雪機で商店街が10月から3月まで歩道の管理をするという協定です。雪が降った朝7時半から8時までに商店街の歩道に歩くスペースを一本空けています。現在もそうですが、商店街に住んでいる方は少なかった



ので、誰が除雪作業をするのが一番のネックでしたが、24時間常駐警備をしている大型店にお願いをして、警備の人に協力してもらったのです。まず、仮の道を一本だけつくって、商

店街の開店時間には皆さんで除雪作業をし、午前中には全部終わっています。

林 まさにそれは本当にボランティアですね。

三島 そうです。除雪機も家庭用のものを考えていたのですが、それでは無理だろうということで、除雪機を2台用意してもらいました。

林 でも大型店が撤退すると、今年の冬は大変ですね。

三島 それが今後の課題です。

国道38号を初めて使用したイベント

林 三島さんの頑張っておられる「くしろ港まつり」についてお聞かせ下さい。

三島 釧路では港まつりが一番大きなお祭りです



が、お祭をする広場がないのです。それで、10年ぐらい前から釧路市と協定を結んで、すぐ裏の市道のパステルタウンを使って、毎年交通規制をかけながら商店街のイベントをやっていました。

林 道路をそうしたイベントに年間かなりの回数使用していたのですか。

三島 ご存じのとおり釧路は、夏でも寒くて霧の多いところなので、イベントは難しいのです。残念ながら年に2、3回しか使っていません。道道では毎年歩行者天国をやっていました。

林 そこで、さらに国道38号を使ったイベントを昨年、なさったわけですね。

三島 ボランティアサポートプログラムの活動が3年目になった時に、そういった関わりから何か国道を使ったイベントをさせてもらえないかとお願いしました。

林 花植えや清掃の活動を通じて、使いたいということ伝えてきたのですね。商店街の皆さんも国道を使用できることになって、かなり盛り上がったのではないですか。

三島 そうです。国道を使用するのは初めてで、正直難しい部分もありました。自分なりに2年前から国道を使って何かできないかと考えていました。例えば、商店街がイベントの露天商を全て賄うというような計画をして、行政側と協議したのですが、国道の上で営利目的というのは非常に難



しかったのです。そこで幣舞橋をバックにコンサートも面白いと思ったのですが、そうすると規模も大きくなり、私たちの商店街だけでは準備や経費の負担も難しいということになったのです。

そんなときに、釧路青年会議所（JC）が、「くしろ霧フェスティバル」の会場を探していることを知りました。それで、この北大通で実施してくれるのなら商店街も協力しますということになり、「くしろ港まつり」と「くしろ霧フェスティバル」をジョイントで開催することになりました。

林 商店街が場所を確保して、JCと協働する形になったのですね。

三島 北大通2丁目から5丁目までの区間を使用、朝9時から夜10時まで車を遮断して3日間実施しました。当日は、市民パレードや大漁ばやしパレード、山本リンダさんのコンサート、レーザーショーなどたくさんの催し物をしました。昔から釧路は8月でも寒くて長袖が必要なのですが、ここ2、3年暑くなっていて、その影響もあり、イベントの告知や手続きなどでずいぶん苦労しましたが、大勢の人が集まりました。公表では延べ42万人ですが、1日目から人がびっしりで動けないくらいでした。

イベント後はゴミの山で、それを商店街で掃除するのが大変でした。もちろんイベント実施前にも清掃をします。

また、清掃といえば、「道の日」にも北大通の清掃活動をしています。その時は小学生や市民を集めて総勢300人で一緒に掃除をします。釧路市長も参加してくれます。

普段でもゴミ拾いをしますが、ゴミの有料化に伴い処理の問題が出てきました。清掃活動で出たゴミの処理には市のゴミ袋は使用できないので、専門業者に有料で回収してもらわなければならない

いのです。これについても、ボランティアサポートプログラムでゴミ袋を提供してもらいました。これは無料で回収してもらえるゴミ袋なのです。商店街の各店舗に配布して普段でも歩道の清掃をしています。

林 そういった商店街の頑張りが、市民にも伝わるとゴミのポイ捨てや迷惑行為がなくなりますね。

今年はどうなイベントを考えているのですか。

三島 以前からパステルタウンでは子供たちの音楽パレードや市民踊りをやっていました。今年は、15～20チームを集めて、太鼓のフェスティバルを計画しています。港まつりに大漁ばやしという船を引っ張るパレードがありますので、それをステージにしようと思っています。まだ、道路使用許可の手続きや資金面の問題も残っていますが、去年は成功したのですから何とか続けたいと思っています。

林 昨年もたくさんのご苦労があった中、大勢の人が集まり、喜んでもらった場所になったわけですから、一年だけで終わるのは本当にもったいないですね。ぜひ頑張ってください。



空き店舗対策～中心市街地活性化

林 第一商店街の組合員は何人ぐらいいらっしゃるのですか。

三島 現在、53名です。当初は60名以上いましたが、廃業などで減っています。

林 商店街の中で、三島さんがずいぶん旗振り役になって頑張っているのですね。

三島 もともとは隣の錦町にいましたが、10年前にこの場所に移り、たまたまお祭りでみんな一生懸命に焼き物をしていたので私も手伝いますよという話で、商店街に入っていったのです。

林 商店街のお祭りを手伝ったのがきっかけで、地域づくりに目覚めたという感じですね。

三島 せめて自分の住んでいるところを何とかしたいという思いでした。

林 三島さんがリーダーとなって、今までとは違った地域づくりが続いているようですね。

三島 先ほどの除雪の話ですが、釧路の冬はマイ



ナス15℃とか20℃ですから、空き店舗の前は踏み固められると凍って除雪できないのです。市民から見ると商店街はそんなこともやっていないという感じでしょうが、きっかけは空き店舗が増えたからで、それを何とかしようというのが本音です。

林 今の空き店舗率はどのくらいなのですか。

三島 約4割くらいです。全て埋まっている商店街は残念ながらありません。

林 空き店舗率は4割ですか…。シャッターを開けるための工夫として起業家を入れている地域も出てきましたが、釧路はどうですか。

三島 釧路にもTMOタウンマネジメント^{※2}があるのです。この通りにもチャレンジショップを設けてやっています。4～10坪の店舗を1～2万円で貸して、ここでの商売を土台にして次に発展してもらおうという試みですが、残念ながら次の段階では家賃の高いここではなく、安いところに行ってしまう。しかもその人たちが1年経ち、2年経ってやっている確率は2割あるかないか。そんなに甘いものではないのです。

最近も若者たちが空き店舗を利用して古着の店だとか、イベントをしていました。商店街組合にも入っている。なぜ商店街組合に入るかというと、空き店舗対策資金が1年間出るので。でも1年間もらうといなくなったりしています。それと普段の商店街活動も一切しません。

林 もっと地域に愛着を持った人にチャレンジショップに入ってきてほしいですね。

三島 そうですね。中心部に賑わいを取り戻した

※2 TMOタウンマネジメント

さまざまな主体が参加するまちの運営を横断的・総合的に調整し、プロデュースする機関、施設の建設主体となることもある。国の制度としては、商店街組合等を中心として設立された第三セクターまたは商工会、商工会議所を想定。中心市街地活性化法に基づく中小小売商業高度化事業構想（TMO構想）はTMOを担う団体が作成し、市町村長が認定する。

いということで、今はとにかく場所が空いたらマンションを建ててください。そして高齢者を住まわせてください。マンションを建てるのであれば下にメディカル機能を設けた建物にしてください。マンションに病院があると高齢者も安心できるので、そういったマンション経営ができる企業を連れてきてもらいたいということを話しています。そのための解体予定の建物はいっぱいあるのですが、アスベスト問題で解体費用が大きなネックになっているのです。

林 それで壊したくても難しいのですね。

三島 最近、中心部に限り解体費用の助成金を国が負担しますという制度ができつつありますが、それでも大変です。

釧路の駅前通りは昭和40年頃から同じ建物です。今、大型店が撤退することで、危機感が出てきました。大型店を誘致しても100年や200年も続くことはないのです。

この前もある方がテレビでこんなことを言っていました。商店街は植物だ。大型店は動物だ。植物は移動できないけれど、動物は食べるものを食べてしまえばいなくなると。そういう街づくりをしていると絶対に駄目ですね。実はアメリカでもそういう現象が7、8年前にはあったのです。今それで一生懸命コンパクトにしています。



林 そうしないと生きていけないのでしょうかね。

三島 絶えずこういうことを繰り返すのが経済だというのですね。次に縮んだときには地方はそのままにしておくほかないというのです。また、調子に乗って引き上げたら大変なことになります。

林 そういう意味では、先ほどおっしゃった介護つきのマンションの立地誘致など、商店街も本当に地域再生をして、変わっていかなくてはいけない時代だと思います。

街路樹を利用した冬のイルミネーション

林 そういう大変な中で活性化に取り組んでいらっしゃる三島さんですが、冬期に実施しているイルミネーションの話もご紹介ください。

三島 これは開発局が国道の街路樹として植えた

オンコの木を利用しているのです。緑色のネットで冬囲いされた沿道の木を見た時、まさにクリスマスツリーとして使えると思いました。それで、電球コードを巻き付けてイルミネーションしようということで市役所に相談したところ、補助金を出してくれることになったので、最初は数箇所だけで実施しました。1本に30mの電球コードを巻き付けるのですが、かなりの金額がかかります。最初、普通の電球を使っていましたが、すぐ切れてしまうので、4年計画で高額ですが耐久性に優れたLED（発光ダイオード：電流を流すと発光する半導体素子の一種）をそろえ、ようやく今年、沿道の66本全部の木がLEDのイルミネーションになるのです。このイルミネーションは市民からとても好評で11月～2月まで点灯しています。LEDにしたおかげで電気代も3分の1になりました。釧路の冬は、寒くて人通りも少なかったのですが、今ではイルミネーションの効果でたくさんの人が歩く場所になりました。来年は、幣舞橋もイルミネーションで飾りたいと話を持ちかけています。

道路上に伊能忠敬の日本地図を

林 これはぜひやりたいという夢はありますか。

三島 夢は、釧路駅から北大通の道路上で伊能忠敬の日本地図をつなげたいのです。

林 道路に描くのですか。

三島 いえ、ラミネート工法で加工した地図を道路に貼って下を見ながら歩いてもらうのです。以前、釧路で伊能忠敬の「アメリカ伊能大図里帰りフロア展in釧路」を開催した際には観光バスが来るほどの人気でした。

林 伊能忠敬が北海道を歩いた時の地図ですか。

三島 そうです。以前、それを広げようとしたとき、道内に場所がなかったようです。

林 日本で全図を広げたのは数箇所しかないそうですね。釧路ですら幣舞橋もいいですね。

三島 本当にやってみたいです。駅前付近からスタートして幣舞橋まで歩いてくる。そんな活用の仕方をしたらどうかと提案しているのです。

また、釧路のように川も海もある町って少ないのです。ですから、何とか川周りをもっと利用できないかと思っています。昔は釧路定期観光船シーグレース号が走っていましたがうまくいきませんでした…。

林 幣舞橋のところに建築中の大きなホテルが完成すると街に元気が戻るといった感じがします。

三島 釧路には韓国からのチャーター便があり、外国人観光客が増えてきていますから、釧路はホテル建設のラッシュになってくると思います。でも、釧路に来て観光するといっても見るところが少ないのです。せっかく海外から釧路に来て、すぐに阿寒や知床へ行くことになります。そこで釧路でお金を使ってもらえるような何かを考えなければいけないと思っています。また、海外から来たタクシー代を半分負担するなどの工夫もいると思います。

林 今、九州ではそういう工夫をしています。例えば海外の人に1万円で九州を回れる交通システムを作り出しています。

三島 九州はもともと行政が外国人に対して一生懸命ですよ。これからは行政と地域住民が手を組んで協力していかないと、まちの活性化はうまくいかないと思います。

林 本来のお仕事もあるのに地域づくりにかけるエネルギーは本当にすごいですね。本日は、いろいろなお話をどうもありがとうございました。



(本インタビューは、平成18年5月27日に釧路で行いました)

profile

三島 基浩 みしまもとひろ

釧路市大町にて生まれる。地元にて卒業後、現像所に入社、30歳で錦町に独立、写真店を経営、現在20年目。10年前に現在の北大通4丁目に移転、釧路第一商店街振興組合に加盟。現在、同組合専務理事。釧路ベイロータリークラブ幹事、釧路水まつりを考える会座長、釧路商工会議所小売部会評議員、MOO再生委員、釧路蝦夷太鼓保存会理事。

林 美香子 はやしみかこ

1976年北海道大学農学部卒業。'76年札幌テレビ放送(株)入社。'85年同社退社後フリーキャスターとして活動。食・農業・地域づくりなどのシンポジウム・講演会にも参加。現在の担当番組エフエム北海道「ミカマガジン」(日曜朝8:00~8:30)。「北海道文化財団」評議員、「北海道田園委員会」委員、「スローフード&フェアトレード研究会」代表、農林水産省「食と農の応援団」メンバー、「フォーラム・エネルギーを考える」メンバーなど公職多数。著書「ハーブティを飲みながら」(共同文化社)など。
